

奨励賞

ともだちっていいね

尾久宮前小学校 一年 岡野 陽空

やなぎだせんせい、こんにちは。「たこのななちゃん」というえほんをしていますか。ぼくはせんせいにおしらせしようとおもって、このさくぶんをかきました。

かなこのおとうさんがのるふねのスクリーンに、たこのこのあしがはさまれてしまいました。あしが一ぼんとれてしまったので、いたそうじゃうずにおよげないだろうとかわいそうでした。でも、かなこがこだこのてあてをして、いっしょにすむことになったので、ぼくはあんしんしました。

かなこがこだこのあしが七ほんなので、なまえを「ななちゃん」とつけたところが、おもしろくてかわいいと

おもいました。かなことがっこうに行くことになったななちゃんは、みんなをみたりきゅうしよくをたべたりしてたのしそうです。ぼくのしょうがっこうにも、ななちゃんがいたらうれしいし、みんなのにんきものになるでしょう。

えがとくいななちゃんがかいたえには、ななちゃんとおかさんがてをつないでいるすがたがかかれています。ぼくは、ななちゃんはおかさんにあいたいのかなど、かわいそうになりました。

それから、かなことおともだちは「うらしまたろう」のげきでななちゃんにおどりをおしえてもらいました。ぼくも、ほんもののりゅうぐうじょうにいるみたいなきをみてみたいし、ななちゃんにおどりをおそわっていっしょにおどってみたいです。

そのあと、ななちゃんがうみのじぶんのいえにかえる

ことになりました。わかれはとてもさみしいけれど、かなことなちゃんにはたくさんのおもいがあるからだいじょうぶでしょう。

このえほんをよんで、ぼくはかなことなちゃんのようになかよしで、たいせつなともだちがほしいとおもいました。そしてそのともだちといっしょにつくったおもいであれば、さようならをしてもぼくはへいきです。でもやっぱりすこしさみしいかな。

【柳田邦男さんからのメッセージ】

岡野さんの文章を読んで、ぼくもたこの子の足が一本取れてしまったところでは、痛みが伝わってきました。かなこが、たこの子に「ななちゃん」と名づけたところでは、ぼくもかわいいなと感じました。

絵本のお話は、想像の世界ですが、読んでいると、なんだかそ

ういうことがほんとうにあるような気になるから、絵本って面白いですね。だから岡野さんだって、「自分の小学校にも、ななちゃんがいたらうれしい」と思ったり、「ほんもののりゅうぐうじょうにいるみたいなきをみてみたい」と思ったりするんですね。

岡野さんは、優しい心を持っていますね。ななちゃんが海に帰ることになったところで、「わかれはとてもさみしいけれど、かなことなちゃんにはたくさんおもいがあるからだいじょうぶでしょう」と書いていますね。すばらしい文章です。